

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
(公 印 省 略)

令和6年度農作物病害虫発生予察情報について

令和6年度農作物病害虫発生予報第16号を発表したので送付します。

令和6年度農作物病害虫発生予報第16号

令和7年3月19日
徳 島 県

I. 果樹
カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が43.8%と、平年(18.5%)に比べてやや高いが、発病度は0.5と、平年(0.1)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病原菌は病枝や病葉で越冬し、翌年の新梢発生時から6月頃まで新葉に雨滴によって伝染する。
- (2) 薬剤防除適期は4月上中旬の発芽直後(芽の長さ1cm程度)と5月中下旬の落花期である。
- (3) 春葉での感染が多いと果実の発病を抑えることは難しい。

かいよう病(スダチ)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬のスダチでの巡回調査では、旧葉での発生圃場率が100%、発病度が9.6と、平年(73.2%、4.6)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方气象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病原細菌は水滴によって運ばれ、気孔、傷口から組織内に侵入する。風速6～8m以上の強風を伴う場合、侵入が助長されるので、防風林や防風ネット等を設置し、防風対策を行う。
- (2) 前年の夏秋梢に発生した病斑が特に翌春の伝染源となるため、被害枝はせん定の際に、徹底して除去する。
- (3) 旧葉に発病が認められる場合には、発芽前の3月下旬に薬剤を散布する。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3半旬の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が43.8%と、平年(74.9%)に比べてやや低く、寄生葉率は1.4%と、平年(10.8%)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 12月に薬剤防除を実施していない圃場では、3月中にマシン油乳剤を散布する。12月または3月に丁寧に散布すれば、初夏まで抑制効果がある。

(2) マシン油乳剤とボルドー液は14日以上間隔をあげ、散布する。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。

(2) 令和6年9月第3半旬及び10月第3半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。

(3) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

II. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が14.7%、発病度が1.0)。

(2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないよう十分に換気を行う。

(2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(3) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。

(4) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が9.4%、発病葉率が0.5%、発病果率が0.0%)。

(2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2)発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)3月第3・4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.7%、発病度が0.1)。
- (2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3)病斑は主に葉裏に形成されるので、葉液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)(令和6年11月5日付けで注意報発令中)

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2)予報の根拠

- (1)3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が42.9%と、平年(61.3%)に比べてやや低いが、寄生葉率は13.9%と、平年(7.6%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)幼虫は葉裏に多く寄生しているので、葉液が葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

- (1)3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、発病果率が1.2%と、平年(18.8%、0.4%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2) 発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(10.2%)に比べてやや高いが、発病葉率は0.3%と、平年(0.6%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が83.3%と、平年(55.2%)に比べてやや高いが、発病葉率は5.5%と、平年(9.1%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 気温が25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.6%、寄生葉率が0.2%)。

(2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、葉液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生葉率が1.5%と、平年(21.4%、0.9%)並の発

生である。なお、被害果は認めていない(平年同時期は被害果率が0.8%)。

(2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (令和6年11月5日付けで注意報発令中)

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2)予報の根拠

(1)3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%、寄生葉率が35.3%と、平年(54.8%、11.1%)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)3月第3・4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が16.0%、寄生葉率が1.2%)。

(2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春キュウリ

べと病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

(1)3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、発病葉率が13.4%と、平年(49.0%、8.5%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

(4) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(55.8%)に比べてやや低いが、発病葉率は6.2%と、平年(4.8%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

褐斑病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、発病葉率が1.1%と、平年(45.3%、5.3%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.9%、発病果率が0.3%)。
- (2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.9%、寄生葉率が0.5%)。

(2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中～多」

2)予報の根拠

- (1)3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が55.6%と、平年(34.4%)に比べてやや高く、寄生葉率は12.8%と、平年(3.6%)に比べて高い。なお、果実では、発生圃場率が12.5%、被害果率が0.8%と、平年(6.9%、0.3%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%と、平年(17.5%)に比べてやや高いが、寄生葉率は1.4%と、平年(0.9%)並の発生である。
- (2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1)予報の内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)3月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が24.9%、発病度が1.9)。
- (2)高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)徳島県では、本病原菌レース1～13まで確認されているため、品種はレース1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2)抵抗性品種でも突然発生することがあるので、発病好適時の栽培では、薬剤の予防散布を行う。
- (3)平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布する。

- (4)罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (5)葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が 9.1%、1株当たり寄生虫数が 0.0頭と、平年(42.4%、0.1頭)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が 9.1%、発病果率が 0.3%と、平年(5.7%、0.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が 20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が 9.1%、発病葉率が 0.1%と、平年(4.3%、0.2%)並の発生である。なお、果実では、発生圃場率が 9.1%、発生果率が 0.2%と、平年(3.6%、0.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が 18.2%、寄生株率が 1.5%と、平年(19.3%、2.7%)並の発

生である。

(2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているのので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が72.7%と、平年(57.1%)に比べてやや高いが、寄生葉率は7.9%と、平年(10.8%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏に寄生しているのので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が45.5%、寄生花率が2.2%と、平年(41.1%、3.3%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月13日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

III. その他

- 1) 水稻の育苗や甘藷の圃場準備等が始まり、農薬を使用する機会が多くなる時期である。農薬による危被害、事故等を防ぐためにも、使用時には周辺環境に配慮した上で取り扱うとともに、使用残農薬、廃液等は適切に処分する。また、水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。
- 2) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL：<https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosh/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。